PORSCHE

911 50

50 Years of the Porsche 911 – Tradition: Future

プレス・インフォメーション

ポルシェファミリー：911の系譜

ポルシェファミリー : 911 の系譜

ポルシェのどのモデルにとっても 911 は基本であり輝かしい成功例として位置付けられます。50 年の長きにおよぶサクセスストーリーを経た 911 は、もはや普遍的スタンダードである言って良いでしょう。どのポルシェにも 911 の要素が引き継がれています。デザインと技術、スポーツ性と実用性の高度なバランスという点において、どのポルシェでも例外なく 911 を目指すべき指標と見据えています。エクステリアデザインにはその血統を色濃く見て取れますし、エンジンフードを開ければ 911 が開拓してきた高効率化技術の成果をご覧になれます。そして言うまでもなく、今日まで常にポルシェブランドの真髄とされてきたスポーティなドライビングテイストとサーキットから公道まで対応する幅広い適応性は、さまざまな面ですべてのポルシェに反映されています。

911 のユニークな特質の 1 つである「過ぎたるアグレッシブさは求めず、しかしサーキットから日常のドライビングまで真にスポーティであること」は、ポルシェのブランド価値を具現化する不変の思想です。今や 911 は各方面で高い評価を確立しており、ポルシェ社はこの評価をさらに確たるものとすべく、すべてのニューモデルの開発には細心の注意を払っています。その結果、各モデルはそれぞれのマーケットで独自の地位を築き、ポルシェの思想をさらに広めました。

911 が今日のすべてのポルシェに影響を与えたことは明白です。たとえば低く構えたフロントセクション、エンジンフードよりも高く掲げられたリアウィング、冷却用のエアインレットはすべてのポルシェに共通する特徴であり、これらは上から見るといわゆる「コークボトルライン」状の力強いエアロダイナミックフォルムを形成します。ルーフラインはリアに向かって流れ、フロントフェンダーはフロントフードよりも高いアーチを描きます。また、テールライトクラスターはリアウィングを強調するようデザインされています。豊かな起伏に富むボディの造形もご存じの通りポルシェを特徴付ける魅力の 1 つです。ボディはモデルごとに入念にデザインされ、時には技術的な限界近くまで形状が追い込まれます。ポルシェデザインは目先の流行を追わずとも見る者の目を奪い、一目でポルシェとわかる強い印象を与えます。汚れてもいないボディをつい手洗いしたくなるかもしれません。その造形をじっくりと味わうために。

ポルシェ技術の DNA : レースから日常まで

もちろん 911 の技術的な DNA もすべてのポルシェに受け継がれています。50 年もの開発期間を通し、サーキットから日常のドライビングまで対応する幅広い適応性を追い求めてきたという点において、911 は他に類を見ないスポーツカーであると言えます。911 は高い効率と確立された技術思想の下に、時の試練に耐えてマーケットで常に生きながらえてきました。

911 の技術はボクスターとケイマンのリアアクスル前方セクションに最も色濃く引き継がれています。水平対向 6 気筒エンジンは最適なマスバランスによる静粛性と比類のない低重心性を兼ね備えます。これらの 2 シーターモデルは個別に開発された排気量、出力、セッティングの異なる 2 タイプのエンジンを搭載します。そのコンセプトは 911 から引き継がれ、可変バルブタイミング/リフト機構バリオカム・プラスとダイレクト・フューエル・インジェクションを採用しています。さらに、エネルギー回生システム、サーマル・マネージメントシステム、オートスタート/ストップ機能といった最新技術も導入されています。リアアクスルよりも前方に水平対向エンジンを搭載したミッドシップ 2 シーターという構造は、すべてのポルシェスポーツカーにとっての始祖にあたるポルシェ No.1（1948 年）まで遡ります。

エンジンのみならず、ボクスターとケイマンのトランスミッションとシャーシコンポーネントも最新型 911 からの技術をしっかりと継承しています。オプションの 7 速 PDK（ポルシェ・ドッペルクップルング）はレイアウトの違いにより当然のことながら回転方向が逆になる点を除けば、911 用とほぼ同じです。新しい PDK の採用によりコースティング(アイドリング回転数でエンジンを無負荷運転)が可能となり、燃費が改善されます。

ミッドシップ 2 シーターとリアエンジン 4 シーターの 911 カレラとでは基本構造が異なるものの、車体設計には最新型 911 の技術を採り入れ、ケイマンはアルミニウムを 44%使用し、軽量化されています。各所に最適な素材を適用する技術は最新型 911 カレラ世代の開発から得られた成果です。911 をはじめとするすべてのポルシェは、常にインテリジェントな軽量構造を重要な特徴の 1 つとしてきました。50 年におよぶ 911 の成功は、エンジン出力ではるかに上回るライバル車を小出力エンジンで打ち負かすという軽量化思想のたまものであると言えるでしょう。

コンポーネントとコンセプト : 911 で培った技術

何よりまして、911 はすべてのポルシェの数多くのコンセプトとコンポーネントに重要な影響を与えています。ポルシェは開発にあたって短期的な効果を求めるのではなく、長期的な技術開発を信条とします。たとえば、ターボ過給にこれほど長く一貫して取り組んできたメーカーはポルシェ以外にありません。1970〜1980 年代においては、誰もが「ターボ」と言えばポルシェ 911 ターボを指しました。ターボによるエンジンダウンサイジングの最高の事例がポルシェ 959 の 2.8 L エンジンです。今日では軽量化と燃費改善のためにターボ過給は理想的な方式であると考えられています。この事例に見るように、ポルシェにおける効率向上への取り組みは常にパフォーマンスの向上ももたらします。911 で蓄積したターボエンジンのノウハウは、それぞれのマーケットセグメントに新たな基準を打ち立てたカイエンとパナメーラのターボモデルにも活かされています。

911 の 50 年におよぶ成功の歴史は、911 以外の各ポルシェモデルにさまざまな形態で幅広く受け継がれています。スポーツ性と実用性、革新性と効率といった特性はカイエンによって SUV セグメントへ、パナメーラによってグランツーリスモへも広まりました。911 と同様に、これらのモデルも時代の要求に的確に応えています。たとえばカイエン S ハイブリッドは、このセグメントにおける最初のハイブリッド車ではありませんが、ポルシェは多くのハイブリッドモデルを販売してきました。パナメーラはそのデザイン、プロポーション、シルエットにより、このマーケットセグメントに独自の地位を確立しました。パナメーラは 4 ドアツーリングスポーツカーとして、典型的なポルシェスタイルを継承しながらスポーティなハンドリング、広い居住空間、多機能のラゲッジコンパートメント、そして何よりもグラントツアラーの名に恥じない最上級の快適性といった多彩な特徴を備えています。

最後に、すべてのポルシェは明瞭で人間工学的に熟成されたスポーツカーとして 911 の血統を引き継いでいます。ポルシェであればモデルやクラスに関係なく即座に操作に馴染むことができ、モデルラインごとにスタイルは異なっても、最高のドライビングを体験できます。なお、ポルシェの全モデルにおいてイグニッションロックはステアリングコラムを挟んでギアシフトの反対側に位置しています。これは創設期から継承されてきたポルシェのトレードマークとも言える伝統です。